

連続講座参加者から

田中です。

ゲストの李さんから、韓国の釜山市の洛東江（ナクトンガン）の河口堰の開放事業の詳しい報告がありました。資料によれば、洛東江河口堰は1987年に完成。2007年にあった「河口堰築造20年評価シンポジウム」で「洛東江は流されるべきだ—汽水生態系復興に向けた河口堰管理方案」が提案され、以来様々な運動が行なわれてきたようです。会場からは「行政が何故、開門に熱心なのか」「住民運動と政治の距離が近いのはなぜか」という質問がありました。それには、「韓国では1987年の民主化運動があり、各種の市民運動の活動が日本より活発で、大統領選挙や市長選挙などで国民の声をとりいれ公約に掲げられるようになったこと」などがあるという説明がありました。武藤さんからは、川の状況や歴史の違いはあるが、今後も情報交換をしながら開門を目指したいという意見が述べられました。

この集会の2部では写真家の磯貝さんの美しい写真と大橋さんの語りで長良川の今昔が紹介されました。大橋さんによれば、最盛期には1000匹以上捕ったこともあったサツキマス漁は今年は僅か48匹だったそうです。

「大橋さんが現役で漁をしておられるうち、ぜひ開門を実現したい」という小島座長の想いが紹介され、ほぼ満員の会場からも同感の拍手でした。

右は愛知県河口堰検討委員会の記事です。



2016/8/1 朝日新聞（名古屋版）